

小規模事業者経済動向調査報告書（要約版）から

◎平成 30 年 4 月～6 月の D I 及び前期（平成 30 年 1 月～3 月）との比較

製造業：採算（経常利益）を除く項目がマイナスの D I を示すなど、景況感は引き続き厳しい。一方で、売上（加工）単価や売上（加工）数量及び資金繰りについても「好転」「大幅好転」「やや好転」の判断を示すなど、厳しいながらも若干の改善の兆しもみられる。

建設業：「完成工事（請負工事）額」の D I がプラスを示すなど、完成工事額や受注額は、「大幅好転」や「好転」の判断を示している。一方で、「採算（経常利益）」の D I が大きくマイナスを示すなど、資金繰りや採算は、「横ばい」や「悪化」の判断を示している。
受注はあるものの、材料価格の高止まりなどの影響で利幅が少なく、採算や資金繰りの改善には結びついていない状況が伺える。

小売業：全ての項目がマイナスの D I であるが、「客数」は「好転」の判断を示しており、「売上額」を悪化させている原因は、「客単価」の「悪化」であることが伺える。「資金繰り」や「採算（経常利益）」の項目も「好転」の判断を示しており、厳しいながらも若干の改善の兆しもみられる。

サービス業：全ての項目がマイナスの D I である。「客単価」及び「利用客数」の項目が「悪化」の判断を示しているほか、「売上（収入）額」、「資金繰り」及び「採算（経常利益）」の項目は「横ばい」の判断を示している。前期までは、他の業種と比較して底堅い景況感で推移してきたが、ここへ来て厳しい兆しがみられる。